

うちの子の変化を見逃さない！

愛犬の変化に注意して！



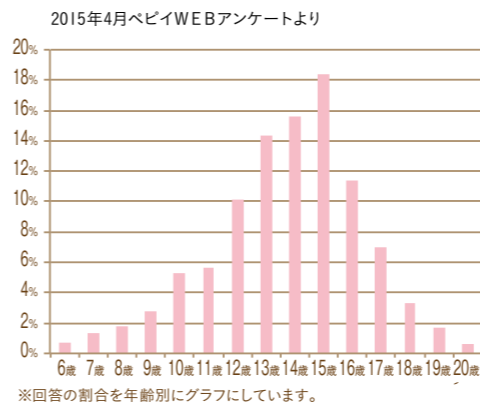
愛犬の「いま」をチエツクしよう！！

一般にシニア期は、体の大きさ(小型犬・超大型犬)、犬種、個体差によっても違いがありますが、7歳頃から徐々に始まると考えられています。年齢を重ねると、今までの違いが見た目や行動に表れてきます。いつも一緒にいると、小さな変化を見逃さずしてしまいうことも。もういちど愛犬の様子をチエツクしてみましょう。

check point

アンケート結果

Q 愛犬に介護が必要になった年齢は?
A 一番多かったのは15歳。
12歳頃から増えはじめています。



シニア期に入る年齢の目安

- 小型犬…11~13歳
- 中型犬…10~12歳
- 大型犬…8~9歳
- 超大型犬…7~8歳

しぐさの変化

- 名前を呼んでも反応しないことがある。**
聴覚が衰えて、音が聴き取りにくくなっていることがあります。
- 寝ていることが多くなってきた。**
- トイレの失敗をするようになった。**
加齢とともに犬も頻尿になるため、トイレに間に合わずに失敗してしまうことも。
- 遊びたがらなくなった。**
好きだったおもちゃに興味を示さなくなったり、物事への関心が低くなること。
- 「マテ」が苦手になってきた。**
- がんこになってきた。**
- 「ごはん」「トイレ」の要求吠えが増えた。**
これまできちんとできていたしつけが、老化が原因でできなくなることも。
- ソファーや階段に上れなくなった。**
- 滑ったり、こけることがある。**
体力が衰えて、足の力が弱くなり滑りやすくなります。

見た目の変化

- 白髪が増えてきた。**
まず顔の回りの毛が白くなり、徐々に体全体に白髪が混じるようになってきます。
 - 被毛のツヤがなくなってきた。**
フケが多くなった。
新陳代謝が悪くなり、皮膚のうるおいが減ることで、毛ツヤが悪くなったり、フケが出たりします。
 - 足腰が弱くなり、姿勢が悪くなってきた。**
 - おしりが痩せて小さくなってきた。**
- 成犬期**

 - 姿勢が良い
 - おしりがプリンとしている

高齢期

 - 首や肩が下がって猫背ぎみに
 - お尻と足が痩せる
 - しっぽが下がる
- 食事の量は同じなのに太ってきた。**
基礎代謝が低下して太りやすくなります。
 - 目が濁ってきた。白くなってきた。**
年を重ねると人間と同じように白内障になることもあります。
- 視力低下のシグナル**

 - 少し離れるとついて来られない
 - 夜になると歩きにくそうにしている
 - 白い壁にぶつかる
 - 階段を踏み外す

これだけはやっておきたい！

7つのポイント



「若いうちにやっておけばよかった…」

愛犬がシニアになってから、感じることもいろいろ。年齢を重ねてから新しいことを覚えたり慣れることは、愛犬にとっても大変です。よね。できるだけ早くから取り組んでおくと、愛犬の健康にも役立ち、シニアになってからの負担も軽減されます。

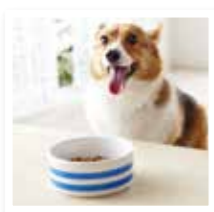
1 高さのある食器にする。

頭を下げて首を曲げたまま食事をするのは、シニア犬にはつらい姿勢。食べやすく飲み込みやすい姿勢を保てるよう、食器の位置を調整して、愛犬にぴったりの高さにしてあげましょう。



2 食事の内容や量を直す。

6、7歳から基礎代謝が低下して太りやすくなったり、消化機能の衰えが始められます。同じフード、同じ量を食べているのに太ってきたら、年齢に合ったフードへの切り替えや量の見直しを考えましょう。



3 トイレを室内でできるようにしておく。

「トイレのため外に連れて行くのが大変だった。」アンケートでも多く寄せられたお声でした。外でしかトイレができないと高齢で頻尿になったり、介護が必要になった時に、犬にも飼い主さんにもストレスと負担が大きくなります。根気は必要ですが、いまからでも室内でのトイレができるようトレーニングを始めましょう。

4 かかりつけの病院を持つておく。

シニアになれば病院に行く機会も増えるもの。経過を見守ってもらえて、いつもの違いにも気付いてもらいやすい、かかりつけの病院があると安心です。できれば定期的に健康診断を受けましょう。



5 服を着ることに慣れておく。

シニアになると防寒対策や手術後の患部を保護するウェアや、歩行補助用のハーネスなど、なにかを身につけることが増えてきます。日頃からウェアに慣れているとストレスが軽減します。



トレーニングのやり方はこちら

「しゃってよかったのかな!？」

要求吠えにも応えず、様子を見ること数時間…ガマンできずにおしっこをしましたが…

「やっぱり外でしたいよ!」

ギャンギャン!

「家の中でおしっこをしていい」とはなかなか理解できないランディ。外に行きたくて吠えますが、ここはグッと我慢して、無視。

スタッフ犬ランディ (MIX 当時10歳♂) がトレーニングに挑戦!

トレーニングスタート

シートを敷いて、トイレスペースを設置。

普段のトイレ環境に近づけるためこんな工夫をしてみました!

- 鉢に丈のある雑草を植え、マーキングできるところを用意。
- ペットシートに外から取ってきた雑草や土を敷いて外の環境に似せる。
- ランディ自身または他の犬の尿をつけたペットシートを置く。

ランディと飼い主の我慢比べが続くと数週間…

その間に少しずつ難易度をあげていきました。

- 雑草や土の量を減らしていく。
- 雑草を取り除く。
- 尿のついたペットシートを置かない。

さらに成功率を上げるためにお散歩は夜だけに、外ではおしっこをなかなかできない状態にしました。

やっと吠えて要求することなく、おしっこができるように! うんちができるようになるにはここからさらに2週間かかりました。